

平成27年度近畿部会第130回例会を下記のとおり開催しますので、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

近畿部会第130回例会

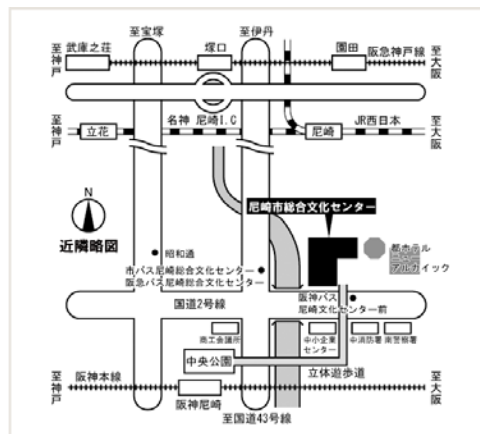
■と き 平成28年1月16日（土）午後1時30分～4時30分

■ところ 尼崎市総合文化センター7階 会議室

所在地：〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2丁目7-16

電話：06-6487-0800

交通：阪神尼崎駅北東に徒歩5分 <http://www.archaic.or.jp/guide/access.html>



■テーマ 「東京大学文書館における資料管理のとりくみについて

：理論の理解と実践の試み」

■報告者 森本 祥子 氏（東京大学文書館准教授）

■内容 今講演会では、東京大学文書館において、継続的に受け入れる大学の法人文書と、寄贈・寄託の史料群について、それぞれに応じた目録作成を模索していただけること、また、それに対応するISAD(G)やオーストラリア・シリーズ・システムといった基準類との関係をどう考えるか、等を取り上げます。

後半は講演者・コメンテーター・コーディネーターの3名によるやりとりを行い、最後のディスカッションに繋げていきます。

コメンテーター：松崎裕子氏（企業史料協議会理事／渋沢栄一記念財団企業史料プロジェクト担当）

コーディネーター：河野未央氏（尼崎市立地域研究史料館）

第129回例会報告

日 時：平成27年11月18日（水）13時30分～

場 所：滋賀県庁東館会議室 県政史料室

参加者：9名

全史料協近畿部会第129回例会は、滋賀県県政史料室（以下、県政史料室）との共催で、講演「明治を生き抜いた近江商人」と、県政史料室の収蔵庫・展示等の見学を行いました。

講演は、共催である県政史料室様の企画で、平成25年3月、県指定有形文化財に指定された滋賀県の歴史的公文書について県民に広く知ってもらうため、「歴史的文書を考える」をテーマにシリーズで開催されているものです。8回目を迎える今回は、江戸時代に活躍した「近江商人」が、明治期以降の時代の変化のなかで、その処世に対しどのような評価受けてきたかについて、滋賀大学経済学部教授である宇佐美英機氏がお話しされました。ちなみにこの講演会は、県民向けに周知案内しているほか、県職員向けの研修講座も兼ねています。

講師の宇佐美氏は、江戸時代後半における近江商人の位置づけを示した上で、政府が資本主義を進めていく明治時代以降、商業資本家であり続ける近江商人が守旧であると批判され、この言説が独り歩きし、科学的な分析がなされないまま、近代近江商人のイメージの固定化がなされていることを説明し、歴史資料による科学的な分析の必要性を話されました。

その上で、現在滋賀大学経済学部附属史料館で整理を進めている伊藤忠兵衛家・長兵衛家（近江出身、伊藤忠商事・丸紅創始者）文書が、創業時から現代まで経営に関わる史資料が伝来しているもので、この史料群が日本商業史・経営史研究に画期的な意義をもつものであると説明し、国の経済史を考えるうえで公的財産に値する企業資料の保存・整理・公開を行う公共施設の必要性も強く主張されました。

宇佐美氏が館長も務められている滋賀大学経済学部附属史料館は、近江商人に関する経営資料だけでなく、滋賀県内の村政等に関わる古文書についても寄贈・寄託等の受け入れをされています。しかしながら、そのような対応は、地方国立大学の施設ではなく、県立の施設（博物館・公文書館）が担うべきであるとも付け加えられました。

講演会終了後は、県政史料室で開催されている企画展示「滋賀の商業と近江商人」を、同室職員の方より展示資料個別に解説いただきながら見学いたしました。その後、県政史料室様のご配意により、講師である宇佐美氏と意見交換の場を設けていただきました。意見交換会では、滋賀県における公文書・古文書の保存公開施設の状況、県内国公立大学における古文書を含む歴史資料を介した地域貢献の在り方など、具体的な意見交換がおこなわれました。

（運営委員 烏野 茂治）